

2012年11月
1048号

万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

アジア太平洋国際女性連盟(FAWA)国際会議 2012 の分科会報告

「Women and Sustainability (女性と持続可能性)」

今年の10月25～28日、3日間に渡ってアジア太平洋国際女性連盟(FAWA)国際会議の第20回大会がグアムで開催されました。グアム大会の分科会は4つ。分科会では、各国の活動を共有し、それぞれが抱える問題にどう対処していくかの知恵を出し合い、議論します。トピックは、いずれもアジア太平洋地域にとって重要な問題が取り上げられており、それぞれの分科会で熱い討議が行われました。

私の参加した分科会「Women and Sustainability (女性と持続可能性)」のトピックは、経済学、金融エンパワーメント、世界食糧危機、貧困といったキーワードで話し合います。経済の視点から「女性と持続可能性」を話し合う分科会です。「持続可能性」という随分壮大なテーマに、社会人経験の浅い私にどのような意見が言えるかしらという心配な気持ちも抱きつつ、各国有識者の考えを生で聞ける大チャンスに心躍る気持ちで分科会に臨みました。

分科会の最初はゲスト講演です。グアム大学の経済学教授・Dr. M クラレット ルアン女史やユナイテッド航空の副社長・シンディ Szadokierski 女史など、経済分野の第一線で活躍する女性達の講演は大変素晴らしいものでした。今は成功している彼女達も、決して最初から順風満帆だった訳ではなく、親を早くに亡くしたり、シングルマザーで奮闘したりと自身の境遇の紆余曲折や自分のゴールをプラス思考で選ぶ大切さを赤裸々に話してくださいました。

【分科会の様子】



また、経済が悪いときに女性が平等に扱われているか？という投げかけから、「女性格差が少ない国」の紹介がありました。上位を占めるのは、スウェーデン、スイス、デンマーク、オランダなど主にヨーロッパの国々。FAWA 参加国では13位にオーストラリア、14位が日本でした。

全員参加の討議では、「女性を高めていくには」のテーマで各々の意見を出し合いました。「教育が必要である」という意見や「人前で意見を言ったり、自分の立場を強く主張したりして強くなっていく」といった意見、「男性とも上手くやっていく(すべての職業において男性がいるのだから)」との意見など。主として“女性がまず立ち上がるべき”との意見があり、その為には“教育が大事”との意見が多数あげられました。今後の活動提案は、お互いを助け合うネットワーキングの確立や、政府に対してグループで意見を主張する、ロールモデルを見つけるなどの案がありました。最後に一冊の会のメンバーより、「今回の分科会で各々が出した意見を“ただの意見”で終わらせてはもったいない。ぜひここに集う一人ひとりが自国に帰った後、イニシアチブをとって行動に変えていきましょう」との発言が会場中の共感を呼び、次回 FAWA までに成果を出し合おう！と決意の漲る分科会の結びとなりました。

今回の分科会に参加して、立場や環境の違う人が意見を出し合い、一緒に考える事の大切さを改めて感じました。今回の分科会の意見から、女性が持つ特性を活かし Sustainability (持続可能性) を実現していく為には、誰かにおもねるのではなく自ら立つ「自立の精神」を身につける教育と社会で一線を担っていく「知識を深める学び」の教育が重要だと思いました。その上で、女性の一人ひとりが自らリーダーとなり、周囲に発信していく小さな積み重ねの上にこそ Sustainability (持続可能性) を備えた男女共同参画社会と経済発展があると思います。日本は経済面では少なからず他の国々よりも恵まれていると思いますし、女性格差が少ない国にもどうか名前を連ねています。しかしながら、女性の管理職が3%という現状や、共働きの女性が家事・育児との両立で負担が増す傾向にあるなど、日本にも課題があります。私自身、働く女性の一人としてこれらの課題と向き合い、今の自分の職場から見える課題解決に日々奮闘していきたいと思います。FAWA の素晴らしい先輩方、高い意識をもって第一線で活動される FAWA メンバーの皆様のような活躍する女性目指し、2年後の FAWA 韓国大会を視野に、一步でも前進して次回大会に臨めるよう日夜励んで参ります。



【FAWA2012 グアム大会にて】

グローリア部 瀧川紗智子